第２回地域復興交流会議　参加報告

９月１日－2 日、第２回地域復興交流会議が川口町の交流体験館「杜のかたらい」で開催されました。大地の会からも小川会長と大谷さん、中野が参加しましたので報告いたします。

この会議を主催したのは、中越復興市民会議です。あの、「語りつぐ　10.23」の発刊の際に資金援助をしていただいた団体です。そのご縁もあって、第１回の会合についで今回も、大地の会がお誘いを受けました。

地域復興交流会議とは、何やら小難しそうな感じがしますが、難しいことはありません。中越地震の被災地でがんばっている地域の団体がお互いに情報交換し、交流するための会合です。だから、参加者は例えば、小千谷小栗山のそば打ちグループのおじいちゃんや長岡市内の子育てグループのおねえさん、川口町の田麦山地区で地域を盛りたてる活動をしているおじさん、行政の人たちなど、実に様々な顔ぶれがありました。おおよそ 50 団体、150 人くらいが集まったでしょうか。

初日は、講演と各団体の活動報告、そして大懇親会、2 日目は講演と地域別情報交換会などがありました。以下、その模様についてお伝えします。

【１日目】

講演　「小さな島の挑戦」

～最後尾から最先端へ～

記念講演は、島根県は隠岐諸島、海士（あま）町の町長さんのお話でした。

この町は一島一町です。住民サービスを考慮して、平成の大合併にも屈せず、単独の町制を貫きました。しかし、そこは過疎化・高齢化が著しい島のこと、財政困難で島の存続さえ危うくなりました。

そこで、町長は生き残るための戦略をあれこれ立ち上げ、島を活性化し、現在では黒字財政にまで持ち込みました。一体何をやったのでしょう？

一つは「守り」の戦略、行財政改革です。町長以下管理職までの給与カットにはじまりましたが、町職員、町議会、老人クラブなどが自ら給与カットや補助金カットを申し入れるまでになり、大幅な経費削減が実現しました。これはひとえに、住民を最優先に考える町長の姿勢にみんなが賛同した結果だと思います。

海士町長の講演

もう一つは「攻め」の戦略。島にもともとあった食材や料理などを島ブランドとして売り出しました。ここで一役かったのが「よそ者」、つまり島外から移り住んできた人間です。既成概念にとらわれず、島の資源の魅力を感知できるのは、島外の人間の強みです。こうした力を最大限に活用したことに成功の鍵がありました。

また、「地域づくりは人づくりから」の思想のもと、「人間力」向上のための教育プロジェクト、都市や外国との交流事業などを行っています。

町長いわく、「行政はサービス業。町長は社長、職員は社員、住民は株主であり顧客でもある」。中越地域にも過疎高齢化に悩む地域はたくさんありますが、海士町の取り組みから学ぶところは多々ありそうです。

各団体の活動報告

３つのグループに別れ、グループの中で団体の活動報告をしました。

大地の会は、「語りつぐ　10.23」の発刊とその反響についての報告、秋の講座の宣伝をしてきました。

他の団体の報告では、先回の交流会議で知り合った団体どうしで交流し、一緒に活動した例もありました。各団体ともそれぞれの分野でがんばっている様子にまた刺激を受けてきました。

大地の会活動報告（中野）

なお、会長が「語りつぐ・・・」を何冊か持って行ったところ、大学の研究者の方々も大変興味を持ち、購入してくださいました。

大懇親会

待っていました、大懇親会。このために参加したようなものです。

「語りつぐ・・・」の取材を通じて知り合った田麦山の方々とも再会できたし、新たに色々な人たちとも交流できました。

田麦山でも現在、地震体験集の発刊にむけて作業が進んでおり、近々300 ページほどの大作ができあがるそうです。住民の体験談は、地震当時のそれぞれの立場から原稿を依頼したものです。体験集の随所に挿入されるスケッチも田麦山出身の画家の方によるものです。地震の、まさに被災地から発信される体験集は、大地の会とはまた違った読み応えのある本になっていると思います。ぜひ手にとって読んでみたいですね。金額や販売方法等はまだ決まっていないようなので、わかり次第、「おいたち」でも紹介しようと思います。「大」懇親会の割には、翌日の会場準備の都合で、せいぜいねばって 9 時過ぎには終了しました。まだ話し足りない感はありましたが、温泉に入り、それぞれの寝床に就きました。（中野雅子）

【２日目】

講演　「中越大震災から 3 年を迎え
復興へ更なるステップ」
～これからの復興推進の方向性について～

２日目の講演は、新潟県県民生活・環境部震災復興支援課 丸山課長さんでした。中越大震災から 3 年を迎え支援課としての考え方をお話いただきました。

今回、新たに発生した中越沖地震のため詳しい内容を提示できないが、大まかな構想についてお話を聞くこととなりました。

・顔の見える支援　・地域の人づくりへの支援
・住民の作るテーマ作りへの支援　・地域へ復興支援の人への助成（金銭面で）

これらの支援策を実施するには、失敗の情報を共有し、皆さんと解決する努力・工夫に役立てたい、とのことでした。

お話の最後に「想いが**熱い**と動きは早い。小さな**成功体験の積上げ**と**長く楽しく**やっていくことが重要」お話しされました。

地域別情報交換会

最初に山古志支所の青木支所長より「3 年目の今山古志の現況」としての話をお聞きしました。全村避難・全村復帰としてやってきましたが、実際には住民生活の拠りどころがどのようになったかで当初のようには進んでいない現状を報告されました。

山古志に求められているとは、震災の事実を風化させないこと、この震災を語り継ぐこと、この地で生活を続けることと考えていると話されました。

他の地域との比較では、小国の取り組みが他の地域と比べて進んでいる。このような取組みの違いの結果較差が生まれている。やはり民力の違いに拠る違いなのではないだろうか、今年はこの違いが現れる年となると報告がありました。

地域団体の活動発表

当日『山の暮らし再生機構』の利用をもっとして欲しいと発表がありました。

・活動の結果として、何を自分たちの周りにいる人達に伝えることが出来るかが地域活動を実践して行くうえで大事な点であること。
・それぞれの活動の仲間を増やすこと。
・それぞれの価値観の違いを解って活動を進めることが大切なことです。

たくさんの意見を以上のようにまとめられて閉会となりました。（大谷晴男）

「語りつぐ 10.23　－ふるさとの大地と中越地震－」アンケートから（２）

前号に引き続き寄せられたアンケートを紹介します。設問は以下の項目です。

①本書のどの内容に興味をもたれましたか。

②今後の防災に役立つと思われましたか。

③その他　ご意見・ご感想など。

長岡市　K.M さん

②非常に役に立つと思います。「越路マップ」を片手に読んでいます。(建築士として窓口相談を行いましたが、反省点が多くあります。)

長岡市　I.K さん

①体験記（第１部）に一番関心を持ちました。改めて日々の備えが必要だと感じました。

②非常に役立ちます。違う視点での意見が知ることができましたので。

③たくさんの人に読んでいただきたいです。

長岡市　M.K さん　（体験記執筆者）

③予想していたよりはるかに内容が濃く、程度の高いのに驚きました。特に第２部「地質から見た地震災害」はとっても勉強になりました。

長岡市(越路)　M.Y さん（体験記執筆者）

①みな興味も関心もあるものばかりですが、あえて上げるなら地震体験の生の声だと思います。

②いろいろ参考になることが沢山あるが、体験の中に役立つものがある。

長岡市　K.H さん

①第２部地質、地盤など。1927(昭 2)10.27 関原大地震があり、それとこの中越地震がどういう関係があるのか関心があります。

②第１部体験記を今後の参考にしたいと思います。

③「貴重な書」とされたことに敬意を持ちます。今後とも貴会のご活躍をお祈り申し上げます。

長岡市　T.M さん

①アンケートで見る中越地震、地質の目から見た地震災害。

②大変役に立つと思います。特にアンケートはよくまとめられたと敬意を表します。

③想像以上に立派な冊子だと感じました。できれば、新聞、テレビなどのメディアが中越地震をどのように捉え対応したか等を載せていただきたかったです。

長岡市(越路)　M.S さん

①すばらしい内容です。実際に起きた出来事なのですから驚きです。色々の場所の様子がわかりました。

②今後の防災に大いに参考になると思います。読んでこそ身につくと感じました。

上越市　S.A さん

①私が前に勤務していた越路町、小千谷市の方々の体験記から当時の大変さを教えてもらいました。地学の先生がたの研究記録は貴重です。

②非常に役立つと思いました。予想して、物心両面から対応・準備ができます。

③中越大地震の記録を、方針を立て、多方面からのものを 300 頁に収められた大仕事は郷土だけでなく日本全体の宝だと思います。中心になって活動された大地の会の方々に心から敬意を表します。

上越市　K.S さん

①地震発生時に人々は何を感じ、どう動いたかを各々の人の立場、その時の状況から具体的で生々しい記述であった。その後の生活再建の中でどうされたか、特に組織づくり、助け合い等についても。

②①との関連で災害発生時、自分はどうしたら良いか学びました。

③研究者だけで書いたものでなく、地震を体験した生活者が書いたものが多いことに意義が大きい。